

期間 27年 1月22日(木)～3月26日(木) [全10回]

応募締切

27年 1月8日(木)

実施
場所九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階(38ページ地図参照)申込・
問合せ先九州国際大学地域連携センター 担当：今井・片山
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 TEL：631-2203 FAX：631-2204

時間

18:30～20:30

定員

30名

受講料

8,000円

コース概要

実施機関：九州国際大学地域連携センター

四大工業地帯のひとつに数えられていた北九州市域の周辺には、近代に造られた建築・土木・機械類が今も多く遺されていますが、近年、これら「近代化遺産」に対する注目が集まっています。

地元北九州では近代化遺産の代表とも言える、八幡製鐵所旧本事務所などが「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産として、来年ユネスコ世界文化遺産への登録を目指しています。その一方で、私たちの身近なところにも近代化遺産は多く存在し、門司港レトロ地区を筆頭に活用事例も見られるなど独自の魅力を見せています。

これらの北九州の近代化遺産について、普段気づかないおもしろさや魅力を紹介します。

月 日	テーマ・内容	担当講師
1月22日 (木)	近代化遺産とは 近年、明治・大正・昭和の各時期に作られた建築・土木・機械類を総称して「近代化遺産」という言葉が使われるようになりました。この曖昧な用語の範囲と意味するところについて、事例を交え紹介していきます。	
1月29日 (木)	筑豊炭田～北九州工業地帯の原点として～ 北九州工業地帯成立の背景には、エネルギー供給地としての筑豊炭田の存在が欠かせません。田川・飯塚・直方の筑豊三大都市を基点として多くの炭鉱城下町が栄え、そして静かにその役割を終えていきました。これら筑豊で今なお輝く遺産を見ていきます。	
2月5日 (木)	若松 筑豊炭田で産出された石炭の積出し港として大きく繁栄した若松の市街地には、今もなお石炭に関連する施設が遺っており、近年活用される例も見られるようになりました。若松に現存するこれら近代化遺産の特徴について解説します。	
2月12日 (木)	黒崎と折尾 もとは筑前六宿の一つであった黒崎と人工河川である堀川運河の結節点であった折尾。両地域は近代の工業地帯化の中で交通の要所として大きく変化を遂げました。現存する遺産の特徴を交えて両地域を紹介します。	
2月19日 (木)	八幡製鐵所と関連遺産群 1901年に操業した八幡製鐵所は、国内の鋼鉄需要を支えながら近代日本の発展に大きく貢献しました。また、製鐵所に関連する各種の企業は、製鐵城下町とも言える地域内に多種多様な産業を成長させ、それら足跡は今もなお北九州に数多く遺ります。	九州国際大学 非常勤講師 北九州市門司 麦酒煉瓦館 館長
2月26日 (木)	戸畑 北九州市域内で最後に市制を施行した戸畑は、若松と一体的に発展を遂げ、戦前期には安川松本財閥の一大拠点となったほか漁業や鋳物産業で大きな発展を遂げます。戦後には臨海製鐵所もでき、工業地として発展した戸畑地域を解説します。	市原 猛志
3月5日 (木)	下関と彦島 江戸時代から「西の浪華」と称された下関と外国艦隊に租借されそうになった彦島。この両地域もまた工業化の波にさらされ、近代建築が次々と建てられていきました。彦島の工業地帯化とともに下関地域についても触れていきます。	
3月12日 (木)	門司 1889年の特別輸出港指定と1891年の鉄道開通によって、門司の港は日本三大港と称されるまでの発展を遂げていき、町にはビジネス街が形成され、料亭などの商業施設も次々と建てられました。その栄華を現存する施設からとります。	
3月19日 (木)	大里と鈴木商店 もとは街道筋の一宿場であった大里の地は、神戸の新興財閥である鈴木商店の工場が次々と立地していくことによって、一大食品コンビナートへと変貌を遂げていきます。今もなお現役工場の稼働する大里地域と鈴木商店との関係について紹介します。	
3月26日 (木)	小倉 幕末期の戦乱によって大きく荒廃した小倉の町は、陸軍第十二師団の設置や陸軍造兵廠の誘致に伴って軍都として大きく発展し、工場も相次いで建てられました。商業建築から軍事遺産まで、幅広い分野の施設が遺る小倉を解説します。	